

編集後記

ロシア軍によるウクライナ侵攻から早 1 年が経ちました。現地の悲惨な状況がニュース報道される度に、「いつまでどこまで殺戮と蹂躪が続くのだろう」と誰もが嘆かずにはいられません。また、「なぜ人類は同じ過ちを繰り返すのだろう」と問わずにはいられません。

人や物を「そだてる」「つくる」には膨大な時間がかかるのに、せっかくの生命も建造物も「ころす」「こわす」は一瞬です。理不尽で無慈悲な暴力によって生み出されるものは、「絶望」「憎悪」「不幸」だけです。人間が求める「希望」「親愛」「幸福」は、得られません。

戦争の犠牲者で最も痛ましいのは、幼い子どもと老人です。偶々この時代この国土に生まれ育ち、何の落ち度もないのに前途ある未来を奪われ、安らかな最期を迎えることすら許されない。独裁者の野望から武力が行使され、毎日何万何千もの生命と財産が失われています。

いつの間にか「宇宙船地球号」といった理念（地球を一つの乗り物と考えて、人間だけでなく、動物や鳥、虫や植物など、生きとし生けるものが、"地球"という名称の宇宙船の乗組員の一人として行動することが必要だという考え方）は、どこかへと消えてしまいました。

人類が快適さを追求した文明の代償として地球温暖化が確実に進行する現在、戦争などしている余裕があるのでしょうか？ただ環境破壊を加速させるだけではないのでしょうか？

旧ソ連の宇宙飛行士ユーリイ・ガガーリンは、宇宙船ボストーク号から「地球は青かった」と告げました。「青い地球は誰のもの？」という問いの答えは、「生きとし生けるものもの」のはずです。特定の個人のものではありません。生殺与奪の権能を有する個人が他の全ての生命や存在を自己の幸福のための手段としか見做していないとすれば、恐ろしい限りです。

宮沢賢治が『農民芸術概論綱要』で発信したメッセージ「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」を理解し、ロケット開発のパイオニアである先進国が科学技術を「宇宙船地球号」の安全な運航に用い、「世界恒久平和」へと導いて欲しいものです。

今号は、こども学科 7 件、短期大学部 2 件、合計 9 件の投稿がありました。

どうぞ高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2023 年 3 月吉日

編集委員長

馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は、基本的に人間科学部に帰属します》

「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については、下記の WEB サイトをご覧ください。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>